私はやはり禁煙すべきだろうか？

6 月の末、私は高熱を出して入院した。病名は急性肺炎である。治って十日後に退院するとき、医者は厳かに、これからはタバコを吸ってはならない、と言った！　彼は、「あなたは軽い肺気腫にかかっています。もしこれからもタバコを吸い続けたら、いずれは肺癌になるでしょう。あなたは禁煙しなければなりません。そうしなければ、死んでしまいますよ」と言った。

そのとき私は心の中で、「禁煙なんて簡単だ。今回入院した十日間、一本も吸わなかった。だが、禁煙が引き起こす『禁煙症』は、まったく自分には起こらなかった。『禁煙しなければならない』だって？　ただ『タバコを吸わない』だけのことじゃないか。何も特殊なことじゃない！」

家にもどり、私は再び中国語の勉強を始めた。本を読み、中国語を日本語に訳し、中国語の文章を写す等々……。少しおかしいぞ！　口にタバコを加えていないとすべてが調子よくいかない……そうだ、まさに老舎先生が言っておられるそのとおりだ。彼はある散文の中で、「タバコを吸わないでいると、私は文章が出てこない……長篇小説はどうしても書き続けることができない……」と言っている。

医者の言いつけを守り、ただいたずらに長寿を追い求めるか、癌を怖れず心ゆくまでタバコを吸い続けていくか。これが目下のところ私の最大の問題である。だが、林語堂という作家の「禁煙」についての文中で下のように言っている。

「だれでも知っている。文を作る者は、気力が充実し、想像力を豊かに羽ばたかせ、広い度量を持ち、筆先鋭く言葉はなめらかであることが必要だ。こうあってまさに名文が生まれる。読者もまた、その精神と意味を理解することができ、胸中にわずかの塞ぐ物もなく、その中に心遊ばせることが必要だ。こうあってはじめて『読む』とみなされる。この種の心境に、タバコを吸わずしてどうしてなれ

ようか？……」

老舎先生はかつてこのように言明された。「先に弔い、それから禁煙！」私はやはり禁煙すべきだろうか？

（2006 年 8 月）

◇◇◇

老舍先生也曾经这样声明:“首先上吊,然后戒烟!”我还是应该戒烟吗?（2006年8月）

（2006年8月）

◇◇◇